

日々新聞

第七拾号

魏野公自東京府主族河野

猛臣といふ人の狹里十三目小布沢某

同居加藤久次と至て懇意に九段の如く

交り深き此河野我が眉毛の薄きを

苦小して里生を恨みあはせりてせむる男あり

明治後四月五日の朝河野加友の家へ行き

ソも切く四方をまわしソもくま居る内

折々切ふ事をソもくま居る内

てのくせと加友の答

手小あつて居るう

ち河野がふた残念お

みと切り有る屋のきの窓の

下をさう眉毛のうをたき

甘中が笑ひてさう取り

残念を加友は何もえぬ

その事ハあはれと云ふ内堅敷

ある刀を一見あはれと云ふ何

心なく河野こそせむる男あり

後て加友を切け大袈裟ふ天刀

△後世に倒る如き又

二太刀切付る不意を

討もて加友の其場を死おひら直ち



藤野野矢

改訂版

新改訂

